

SPAC-静岡県舞台芸術センター 2026 年度年間ラインアップ発表！ 2026.4 ▶ 2027.3

SPAC-静岡県舞台芸術センターの 2026 年度のプログラムは、劇作家の石神夏希がアーティスティック・ディレクターをつとめ国内外の優れた舞台芸術作品を紹介する「SHIZUOKA せかい演劇祭」、古今東西の名作を現代の演出で上演する「SPAC 秋のシーズン 2026-2027」を中心に、各地で多彩な人材育成・アウトリーチ活動を展開します。



写真

左上：『うなぎの回遊』台本・演出：石神夏希 撮影：鈴木竜一朗／右上：『王女メデア』構成・演出：宮城聡 撮影：内田琢麻

左下：『伊豆の踊子』演出：多田淳之介 撮影：三浦興一／右下：インクルーシブシアターてあとるてをとる「ちかくにあるとおく」演出：深沢襟 撮影：平尾正志

「SHIZUOKA せかい演劇祭」では、SPAC 作品として石神夏希がブラジルにルーツを持つ地域住民とともに創る新作『うなぎの回遊 Eel Migration』を初演、また宮城聡の代表作『王女メデア』が 16 年ぶりに静岡での再演を果たします。加えて注目の振付家・下島礼紗と SPAC の初の創作となる新作『さあ環境に抵抗しよう、死に抵抗しよう。そうさ生に抵抗するのさ、』のワーク・イン・プログレス発表もごぞいます。また期間中、国際交流基金との共催事業として東南アジアと日本の劇作家のための 3 年間の国際プログラム「BIOTOPE」が始動します。

10 月から始まる「SPAC 秋のシーズン 2026-2027」では、引き続き石神のディレクションによる《きょうを生きるあなたとわたしのための演劇》というメッセージのもと、多田淳之介演出『伊豆の踊子』(2023 年初演)、瀬戸山美咲演出の新作『ニホンジン』、深沢襟演出による新作『星の王子さま』の 3 作品が並びます。今年度も SPAC の活動にご注目ください。

石神夏希 Ishigami Natsuki

劇作家。国内外で、都市や人々の暮らし、コミュニティのつながりに目を向けた演劇やアートプロジェクトを手がける。ディレクションの仕事として「東アジア文化都市 2019 豊島」舞台芸術部門事業ディレクター、ADAM Artist Lab 2019(台北)ゲストキュレーター、静岡市まちは劇場『きょうの演劇』企画・ディレクター(21 年度)他。SPAC では、2022 年・2025 年『弱法師』(作：三島由紀夫)、2023 年『お艶の恋』(原作：谷崎潤一郎『お艶殺し』)を演出、「ふじのくに」せかい演劇祭 2024 にて『かちかち山の台所』を作・演出。「SPAC 秋のシーズン 2025-2026」より、アーティスティック・ディレクターとして、SPAC 年間のプログラミングに携わる。



Photo by Makita Natsumi (F4,5)

報道機関からのお問い合わせ先：

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報：坂本・計見・村上 TEL：054-203-5730 (静岡芸術劇場)／E-mail：koho@spac.or.jp

【SPAC 2026 年度ラインアップ・主な年間事業】

◎事業・公演内容等は、都合により変更・追加になる場合がございます。

4-5 月

SHIZUOKA せかい演劇祭 2026

会期：4 月 25 日(土)～5 月 6 日(水・休)

会場：静岡芸術劇場、静岡県舞台芸術公園、駿府城公園 ほか



SPAC-静岡県舞台芸術センターが主催し毎年ゴールデンウィークに開催される国際演劇祭。ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2026」とともに新緑の静岡を盛り上げます。

2026 年度の演劇祭では、劇作家・演出家の石神夏希がアーティスティック・ディレクターをつとめ、全てのプログラミングを担います。石神は、国内外の都市で地域の人々とアートプロジェクトを立ち上げてきた実績をもとに、演劇祭においても地域に根ざした作品づくりや、創作のプロセスに触れる機会を設けるとともに、アジア地域での新たなネットワークづくりとして国際交流基金との 3 年間にわたる共同事業「BIOTOPE」を始動します。

* 「SHIZUOKA せかい演劇祭」・「ストレンジシード静岡」、ならびに「BIOTOPE」プレスリリースをご覧ください。

【SPAC 新作】

『うなぎの回遊 Eel Migration』

台本・演出：石神夏希 音楽：棚川寛子

日時：4 月 25 日(土)、26 日(日)、29 日(水・祝)

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

産卵のため約 3,000 km 離れた深海と日本の川や湖を行き来するうなぎの生態と、さまざまな理由で移動を繰り返す人々の姿を重ねあわせた石神夏希×SPAC の新作パフォーマンス。静岡で暮らすブラジルにルーツを持つ地域住民を主要キャストに迎え、寓話的なフィクションを立ち上げます。



『うなぎの回遊 Eel Migration』撮影：鈴木竜一朗

【SPAC 新作 ワーク・イン・プロGRESS】

『さあ環境に抵抗しよう、死に抵抗しよう。そうさ生に抵抗するのさ、』

構成・演出・振付：下島礼紗

日時：4 月 25 日(土)、26 日(日)、29 日(水・祝)

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楯円堂」

論理では捉えきれない社会と人間の不条理な実像を、肉体表現を介し見つめなおす作品の発表を続けてきた気鋭の振付家・下島礼紗。1966 年の静岡県一家 4 人殺害事件で再審無罪が確定した袴田巖氏の、48 年間にも及ぶ極限の独房生活の中で出現した「歩行」に着目し、創作を開始します。2027 年の初演を目指し創作される本作のプロセスに触れる機会として、ワーク・イン・プロGRESS公演を実施します。



【SPAC レパートリー】

『王女メデиа』

台本・演出：宮城聡 原作：エウリピデス 音楽：棚川寛子

日程：5月2日(土)～5月6日(水・休)

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

1999年に初演され、世界20都市以上を巡った宮城聡の代表作。悲嘆、裏切り、復讐という普遍的な物語に、鮮烈で力強い視点をもたらし、国際的に高い評価を受けてきました。2025年ロンドン公演でも、時代を超えて突き刺さる鋭い問いと衝撃を放ち、観客を熱狂の渦へと巻き込んだ本作が、16年ぶりとなる静岡で待望の再演を果たします。

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会



『王女メデиа』撮影：内田琢麻

BIOTOPE

SPAC-静岡県舞台芸術センターは、国際交流基金との共催により、東南アジア諸国との舞台芸術における国際交流事業「BIOTOPE(ビオトープ)」を始動します。2026年から3年間にわたり行われ、演劇祭の期間中には、東南アジアと日本の劇作家が交流しながら創作に取り組む「BIOTOPE—劇作家のためのキャンプ」を中心に、東南アジア諸国の舞台芸術作品を上演する招聘プログラムのほか、招聘アーティストによるワークショップや交流イベントなどを実施します。

SPACの創作拠点である「静岡県舞台芸術公園」をひとつの実験場として、異なる文化的・社会的背景をもつ劇作家／シアター・メイカーたちが定期的に集い、対話と実践を重ねていきます。

主催：国際交流基金、SPAC-静岡県舞台芸術センター



2026.10月-2027.3月

SPAC 秋のシーズン 2026-2027

世界の名作戯曲を現代の演出でお届けするSPACのシーズンプログラム。2025年度より劇作家の石神夏希がアーティストック・ディレクターをつとめ、＜きょうを生きるあなたとわたしのための演劇＞というメッセージのもと今に響く作品をお届けしています。2026年度は、静岡県伊豆地域を舞台とした人気作『伊豆の踊子』、日系ブラジル人家族の100年にわたるドラマを描く『ニホンジン』、そして時を超え愛され続ける『星の王子さま』の3作品。「普遍的なメッセージ」や「地域にまつわる物語」を新たな視点で再編し、“自分ごととしての観劇体験”を提供していきます。

「秋のシーズン」では週末の一般公演に加え、平日には若い世代がはじめて演劇にふれる機会として「中高生鑑賞事業公演」を実施し、毎年1万人をこえる県内各地の中高生に本格的な舞台鑑賞の機会を提供しています。

[SPAC 秋のシーズン 2026-2027 | 主催・製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター]

#1 10-11月 静岡芸術劇場

『伊豆の踊子』

台本・演出：多田淳之介 作：川端康成

映像監修：本広克行

ノーベル文学賞作家・川端康成の代表作を、多田淳之介が「観光演劇」として2023年に舞台化した本作。孤独や憂鬱から逃れるため、伊豆へ旅に出た青年が、旅芸人一座と出会い、踊子の少女に淡い恋心を抱きながら下田へと旅する、美しい旅情と哀しさの物語。修善寺、天城峠など静岡県伊豆地域の風光明媚な映像を背景に、演歌からJ-POP、ラップに彩られた演出で、幅広い観客をとりこにした人気作、待望の再演。



多田淳之介 演出 SPAC『伊豆の踊子』撮影：三浦興一

多田淳之介（ただ・じゅんのすけ）

演出家。東京デスロック主宰。古今東西の戯曲の上演、ダンス作品、観客参加型作品など多彩な作品を国内外で上演。創作活動と並行して公共劇場の芸術監督や自治体のアートディレクター、フェスティバルディレクターを歴任。全国の劇場や学校、地域施設でのこどもからシニア、外国人、障害のある方など様々な人々との創作やワークショップ、アートによる地域課題への取り組みを実践する。2013 年日韓合作『ガモメカルメギ』にて韓国の第 50 回東亜演劇賞演出賞を外国人演出家として初受賞。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。SPAC では 2018 年に『歯車』（作：芥川龍之介）、2023 年に『伊豆の踊子』（作：川端康成）、2026 年に『ガリレオ～ENDLESS TURN～』（原作：B・ブレヒト）を演出。



©平岩享

#2 11-12月 静岡芸術劇場

2027 年 1-2 月 沼津・浜松公演を予定

『ニホンジン』【新作】

上演台本・演出：瀬戸山美咲

オスカル・ナカザトの小説に基づく

翻訳：武田千香（水声社、2022年）

Copyright © 2011 by Oscar Nakasato

Japanese language theatrical adaptation licensed by Oscar Nakasato c/o LVB&Co.

Agência e Consultoria Literária, former Villas-Boas & Moss Literary Agency, Rio de Janeiro, through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo



瀬戸山美咲 演出『橋山節考』撮影：平尾正志

ブラジル日系三世の作家オスカル・ナカザトがポルトガル語

で書き、ブラジルの芥川賞と呼ばれるジャブチ賞を受賞した小説『ニホンジン』を、演劇作家・演出家として演劇からミュージカルまで幅広く活躍する瀬戸山美咲の台本・演出で舞台化する。20 世紀初頭にブラジルへ渡った日本人家族の 100 年にわたる物語から、日本とブラジルの歴史や背景を見つめ、また静岡県に多く住むブラジルルーツの方との交流・対話からも地域の物語を編み直していきます。

瀬戸山美咲 SETOYAMA Misaki

東京都生まれ。劇作家・演出家。2001 年にミナモザを旗揚げ。2016 年に『彼らの敵』が第 23 回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞。ストレートプレイから音楽劇、ミュージカルまで幅広く手がけ、芸術選奨文部科学大臣賞新人賞、菊田一夫演劇賞などを受賞。ふじのくににせかい演劇祭 2024 にて『橋山節考』（2023 年／上演台本・演出）を上演。近作に音楽劇『コーカサスの白墨の輪』（2026 年／上演台本・演出）、『火の鳥 異形編』（2025 年／上演台本・演出）、ミュージカル『ある男』（2025 年／上演台本・演出）、『PERFECT』（2025 年／作・演出）など。コミュニティでのワークショップや創作にも継続的に携わる。2022 年より日本劇作家協会会長に就任。



#3 2027年1～3月 静岡芸術劇場

『星の王子さま』【新作】

構成・演出・美術：深沢襟

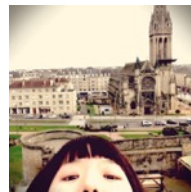
原作：アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ

砂漠に不時着した飛行士が、ほかの星からやってきた小さな王子と出会う物語を描いた、サン＝テグジュペリの児童文学。人生の謎にヒントを与えてくれる奥深いストーリーや、「たいせつなことは、目に見えない」というメッセージとともに、SPACで数々の舞台美術を手がけているほか、インクルーシブシアターの演出も務める深沢襟によって、美しさと驚きに満ちた物語世界が作り出されます。

上 深沢襟 演出「ちかくにあるとおく～鏡の国のアリスより～」撮影：平尾正志
下 寺内亜矢子 演出／深沢襟 美術デザイン『鏡の中の鏡』撮影：西野正将

深沢 襟（ふかさわ・えり）

静岡生まれ。舞台美術家。武蔵野美術大学で舞台美術家・高田一郎、小竹信節に師事する。2000年に劇団「ク・ナウカ」に入団、演出と舞台美術の研鑽を積む。2006年よりSPACに参加。戯曲、演出のイメージのみならず、立ち回る俳優との関係性から空間を創り上げる舞台美術が特徴。SPACでは、『真夏の夜の夢』『白狐伝』（以上、演出：宮城聡）などのほか、『伊豆の踊子』（演出：多田淳之介）、『ハムレット』（演出：上田久美子）などの舞台美術を手がける。近年は活動の幅を広げ、インクルーシブシアターであとるてをとる『ちかくにあるとおく～鏡の国のアリスより～』では構成・演出・美術を担当。2024年、こどもとアートを楽しむためのアトリエ「くうそうときおく」を静岡市葵区にオープン。2026年2月、スコットランドで世界初演されたオペラ「The Great Wave」にて小道具デザインを担当した。



SPACの人材育成・アウトリーチ事業

通年 | 人材育成

世界にはばたけ、Shizuoka youth!

SPAC 演劇アカデミー

<世界で活躍できる演劇人>を目指す若者の感性を育むことを目的とした高校生対象の1年制の演劇塾。2024年からは23歳までのオーバーエイジ枠を設置。フランス・ルーアンコンセルヴァトワール、韓国・ソウル演劇協会との国際交流事業も実施。

通年 | 人材育成

ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト

STRANGE Lab.

ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」の運営により、日本の若手アーティストが静岡でストリートシアターのオリジナル作品を創作・発表することで、国際的な舞台へと躍り出るチャンス獲得を目指す、長期的なアーティスト育成プロジェクト。



8月 | 人材育成

スパカンファン - プラス SPAC-ENFANTS-PLUS

カメルーン出身でフランスを拠点に活躍する振付家・ダンサーのメルラン・ニヤカムとオーディションで選ばれた静岡の中高校生&55歳以上のメンバーによる世代をつなぐダンスプロジェクト。

振付・演出：メルラン・ニヤカム



2025年スパカンファン-プラス『ISSAMBA』撮影：三浦興一

7月 | 人材育成

すばっくおやこ小学校

親子、ときどき同級生。すばっくおやこ小学校は、親も子も同じ「小学生」になって授業を受ける、そんな楽しいイベントです。5年目となる2026年は静岡県東部・長泉町で開校！

【対象：小学校1～6年生とその保護者の方】



すばっくおやこ小学校 2025 撮影：牧田奈津美(F4,5)

8月 | 人材育成

SPAC シアタースクール

学校では触れる機会の少ない「演劇の面白さ・奥深さ」を、静岡県の子どもたちとその保護者の方々に知ってもらうことを目的に、SPACの俳優・スタッフによる指導のもと、発声、俳優のための基礎的なトレーニング、楽器演奏などを通して「舞台に立つためのからだづくり」を学び、みんなで作りあげた作品を発表します。



シアタースクール 2025 発表会『星の王子さま』より 撮影：猪熊康夫

2027年3月 | 人材育成

すばっくこども大会

静岡県内の小学生を対象に、歌やダンス、演奏、マジック、落語、コント、ライブペインティングなどなど、枠にとらわれない自由な表現を静岡芸術劇場の舞台で披露していただきます。SPACの俳優やスタッフも、子どもたちの発表を全力でサポートします。

通年

アウトリーチ事業

SPACのアウトリーチは、「おはなし劇場」などの鑑賞型のプログラムから、演劇の手法を使いゲーム感覚でお腹から声を出したり、身体を動かす体験型のプログラムまで、地域コミュニティの活性化や課題解決など、ご希望に応じたプログラムをご提案させていただきます。

- ・【体験型】演劇ワークショップ／リーディングカフェ／ダンスの種
- ・【鑑賞型】インクルーシブシアター／おはなし劇場／出前劇場
- ・【その他】学校訪問プロジェクト／企業研修など



SPACの創作現場では、「静岡県舞台芸術センター ハラスメント防止ガイドライン」に基づき、一切のハラスメント行為をなくし、全ての参加者が心身ともに安心して関わられるような場づくりに努めています。

■ SPAC(Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。2025年、SPACは財団設立30周年を迎え、演劇を通して磨き上げてきた「人」と「技術」を、企業やコミュニティと連携しながら福祉・観光・人材育成など地域の活性化や課題解決に活用しています。

